社会福祉法人　愛　神戸真生塾
題字　斉藤 敬好

第 26 号
2013年 11月1日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail: kouhou@kbshinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680

村井理事にインタビュー

神戸市中央区社会福祉協議会　理事長
神戸真生塾　理事

村井　和子

＊社会福祉に携わる事になったきっかけ＊

私は神戸の北野で育ち、子どもの頃から近くにあった聖愛教会に通っていた。戦時中は母の故郷の小豆島に疎開していたが、戦後もそこで幼稚園の先生などをしていた。一九四九年（昭和二四）歯科医師と結婚し、現在の花隈に嫁いだ。一九五三年（昭和二八）長男が神戸教会のいずみ幼稚園の一期生として入園し、当時の鈴木浩二牧師に可愛がって頂いた事で神戸教会との関わりが出来た。次男もいずみ幼稚園でお世話になっていたので幼稚園の役員となり、その後地域の小学校・中学校の役員や、花隈自治会の創設に携わった事がきっかけで、民生委員を引き受ける事になり、地域の仕事をやらせていただいて来た。その後、中央区の婦人団体協議会や社会福祉協議会の仕事に声がかかるようになったり、それらの仕事を数十年続け、現在は神戸市中央区社会福祉協議会の理事長をしている。長年民生委員や自治会の役員として地域の子ども達に関わってきたが、小前元施設長に依頼されるまで児童福祉に関わったことはなかった。しかし、先の話通り戦後幼稚園の教諭をしていて児童福祉には関心を持っていたこともあり自分の経験が役に立てばと思い、二〇〇〇年（平成一二）の春に神戸真生塾の役員を引き受ける事になった。

＊神戸真生塾のイメージ＊

神戸真生塾といえば日曜日に神戸教会の前ですれ違うハキハキと元気に歩いて礼拝に通われていた水谷愛子さんの姿が思い浮かぶ。その当時は終戦直後の事で施設に対して少し暗く閉鎖的なところがあるのではないかとの印象を持っていた。民生委員や自治会の役員として、また今は小学校区毎にあるふれあい街づくり協議会のお仕事をさせていただいている事もあり、地域の子ども達に様々な行事を提供し一緒にやってきたが、神戸真生塾の役員になって判った事は真生塾の子ども達の方が地域の一般家庭の子ども達よりも数多く施設内外の行事に参加しており、その点では職員の苦労も多いと思われるが、今は昔の暗いイメージは無くなり、子どもも職員もとても明るく気持ちの良い印象に変わっている。

＊今後の施設の課題＊

地域の児童福祉に関して神戸真生塾は現時点でもしっかりと役割を果たして来られているが、改善の必要性があれば、役所に任せておくのではなく施設から問題点とその改善策をどんどん発信して行けば良いと思う。

＊子ども達へのメッセージ＊

入所している中で辛い経験や大変な思いをする事もあると思うが、施設にいる事で卑屈になったり不幸だとは思わず、神様からの愛はもとより施設の職員や地域に見守られていることを覚え、明るく育っていって欲しい。

（インタビュアー・金岡）

琵琶湖キャンプ

今年の夏キャンプは7月29日～31日にかけて総勢49名で復活教会北小松キャンプ場に2泊3日で行ってきました。

初日と最終日は残念ながら雨天のため琵琶湖にて泳ぐことが出来ずとても残念でしたが、キャンプ場からは笑い声が絶えない楽しいキャンプとなりました。

今年のキャンプは室内にて行われたプログラムが多かったのですが子ども達も不満を漏らすことなく楽しんで行うことが出来ました。スイカ割りを室内で行ったのですが外でしている様な気分になれるようスイカ模様のビーチボールを用意して新聞紙で棒を作成し行いました。子ども達もとても楽しそうに声を発して誘導したり手を叩いて音を出して誘導したりと盛り上がりました。

毎年行われている夕食後の肝試しも地面のコンディションが悪く実施できず子どもたちはとても残念そうでしたが、怖い話大会を行い職員が怖い話をしている間に窓の外に白い影が…なんてこともあり怖くて一時騒然としましたが皆夢中になって話を聞いていました。普段から怖い話などを好んで子ども達も聞いたり見たりしていますが木々の茂った雰囲気の中で行われ、より一層怖みが増し怖くて叫ぶ子もいましたが終わったあとには笑顔でとても楽しんでいる様子が伺えました。

今年はキャンプ2日目に小学生が3つの班に別れ滝を見にハイキングに行ったり、琵琶湖周辺をレンタサイクリングで走ったり、キャンプ場に残り夕食作りをしました。ハイキング・サイクリングから帰ってきた子ども達は疲れた様子もなく道中の様子や感想を楽しそうに語ってくれました。夕食作り班も皆で協力し可愛く型抜きされた人参が入ったカレーを作ってくれました。とても美味しく直ぐに完売でした。幼児は「こどもの国」という大型児童館に行き楽しく体を動かし遊びました。水泳時間は例年に比べると少ないキャンプとなりましたが、その分活動量は多く充実したキャンプとなりました。

ハイキング・サイクリングに出かけた班は琵琶湖の気持ちよい風に包まれ各所を訪れ自然の素晴らしさを身をもって感じることが出来たキャンプになった事と思います。サイクリングやハイキングでの反省点など課題も残りますがこのキャンプでの経験が子ども達にとってかけがえのない思い出・経験になること、またこれからの子ども達の成長に繋がることを願います。

来年の夏キャンプも子ども達にとって待ち遠しい一大イベントであること、これからの成長にとってかけがえのない貴重な体験であるように今年の反省点、良かった点を活かし来年度のキャンプは更に充実したキャンプになるよう職員一同励んでいきたいです。

（岡田）

YMCAキャンプ

今年の中高生キャンプは六甲山YMCAの方へ御招待で8月7日～8日の日程で中高生男女9名で行ってきました。

初日は六甲山牧場で羊や動物たちと戯れた後、六甲山の道なりをドライブしながら招待して下さった六甲山YMCAの方へ。夕食までの間はUNOをしたりグラウンドで汗を流したりと、楽しみました。

夕食はキャンプ恒例のバーベキュー。しかも海鮮付き。「わーい！」。子ども達はそれぞれ交代しながら食べたり焼いたり、楽しくわいわい夕食の時間を過ごせました。

夜は街灯のない真っ暗な中、花火。そして簡易望遠鏡を片手に星空観察。神戸の中心地ではなかなか見れない星も綺麗に見えました。ただし、どこの星が何の星なのかはさっぱりでしたが…。その後のナイトハイクは職員が指し示した暗闇の中を進んでもらい、なかなか目的地に到着しないハプニング？もありましたがそれもまた一つの思い出となりました。

キャンプといえば自分達の食事は自分達で作る事が醍醐味でもあり、翌日の昼食は一風変わったナン＆カレー作りにしました。さすがは中高生、それぞれ役割も自然と決まり、手際よく作業に取り組んでいました。皆でわいわいしながら作ったナン＆カレーはとってもおいしく出来上がりました。そして今回の締めは六甲山を下って降りること。木々に囲まれ、暑い日差しを直接当たる事はなかったので、皆元気に下る事が出来ました。

丸々2日間、六甲山という大自然の空気を満喫し感じながら有意義に過ごせた事は貴重な体験となった事でしょう。来年の夏もまた、子ども達が一回りも二回りも逞しく成長出来るように、そして楽しめる企画を計画出来ればと思っています。

（豊福）

《児童養護　神戸真生塾》

雨の納涼大会

今年度の納涼大会では天候が悪い中でしたが今年も子ども達、地域の方々に楽しんで頂く事ができ無事終了しました。

天気予報で雨ということが分かってから早めの体育館で行う準備をしましたがいつもの屋外でするよりは狭くお客様にはご不便をおかけしました。

さて、今年の納涼大会も沢山の方々の協力を得て、楽しく充実したプログラムでお届けすることができました。ご協力ありがとうございました。

子ども達が積極的に参加し、練習を通して大きく成長して私達も嬉しく思います。

準備では中高生の子どもたちも壁面作り、ステージでの司会、出店の手伝いもしてくれました。子ども達が参加したプログラム『真生アンサンブル』は吹奏楽を子どもと職員とそして職員が所属している楽団の方々に協力を頂いて演奏をしました。

また、沖縄の音楽を通して子ども達の歌や太鼓それに合わせて職員たちのギターと三線も加わり和やかな雰囲気になりました。

今年もうたっこも参加して『花は咲く』など難しい曲にも挑戦しました。

山の手小学校の先生方によるステージもあり沢山の珍しい楽器と歌で会場を華やかに盛り上げて下さっています。

ボランティアでヒップホップを教えてくださる方々が子ども達に約1ヶ月半指導してくださりチーム名は『CRANK LIL HOPES』としてダンスを皆さんの前で披露することができました。

練習も投げ出す子は誰一人おらず、「今日は練習あるん？」と練習を楽しみにしながら取り組むことが出来ました。

堂々と踊る姿はこれからの様々な事での自信に繋がって欲しいです。

今年はどの子どもたちもステージに出たり、準備を手伝ったりと子ども達とともに作り上げた納涼大会でした。また来年も楽しい企画をし子どもたちと盛り上げれるようにしたいです。

（増本）

中高生も大活躍

今年度の納涼大会も皆様のおかげで無事に成功することが出来ました。その成功の影には子ども達の大きな協力がありました。今年は前年度に比べて中高生が積極的に協力してくれ、当日手伝いに参加しにくい子ども達は会場設置や壁面を作り直すにあたって切り貼りの作業を手伝ってくれました。どの店の手伝いがしたいかアンケート制にしたのですが、希望者が多かった所は他の店の手伝いにまわってくれるなど協力して決めることが出来ました。納涼大会当日は店番や司会を手伝ってくれたり、話し合いで自身たちで考えたお店を出し大盛況でした。自身で案を出した的あては設置台を作ったり製作から始めました。職員も協力しながら景品の振り分けなども行いました。一等の景品が簡単に当たってしまっては面白くないので少し難しくしたり学年ごとで距離を変えたり何度も試して出店しました。ゲームの説明では小さな子ども達にも分かるように同じ目線に合わせて話しかけたり少しおまけをしたりなどとても積極的に行動していました。ご飯を後回しにして店番に協力してくれたり、他の店を見てまわる時間が減ってしまうのにも関わらず協力してくれていた姿に感動しました。

この中高生の姿を見て今の小学生が中高生になった時に、より納涼大会を盛り上げてくれるような活躍をしてくれたらと願うばかりです。

今年度は中高生の活躍の記事を書かせていただきましたが、小学生や幼児の子ども達もステージで大変活躍して盛り上げてくれました。来年度の納涼大会も子ども達と協力して盛り上げていきたいと思うので温かく見守っていただけたら幸いです。

（中山）

《児童養護　神戸真生塾》

真生乳児院へボランティア

中学三年生の福岡采奈さんは、小さい子どもと関わるのが好きで、乳児院の子ども達と関わりたいという希望を私たちに話していました。乳児院の綿谷前院長に相談し、昨年の十月から時々遊びに行かせて頂くことになりました。

しばらくして、綿谷前院長より、「定期的に来てもらった方が、子どもたちも喜ぶし、夕方の時間帯は乳児院の子ども達は不安になりやすく関わりを求めているので、来てくれたら助かる。また、采奈ちゃんにとっても約束して定期的に来ることで責任感や自信にも繋がるのではないか」と言って頂き、今年の一月から、毎週日曜日の夕方五時～六時半までのボランティアを始めました。

子ども達との　関わりをとても楽しみにしており、現在もしっかりと約束を守り続けています。

☆采奈さんに聞きました。

『乳児院でどんなことをして過ごしていますか？』

お風呂から上がってきた子どもの服を着せたり、オシメパンツをはかせたり、髪の毛をドライヤーで乾かしたりしています。夕食の時間は、まだ夕食を食べない0歳児の赤ちゃんと遊んでいます。

『乳児院のお手伝いを続ける中で一番嬉しかったことは何ですか？』

最初、這い這いしか出来なかった子が、ボランティアを続けるうちに、私が「よいよい！」と声を掛けると、歩けるようになったことです。

☆乳児院で采奈さんがよく入っているお部屋の中山保育士・小笹保育士に聞きました。

『采奈さんの乳児院での様子はどんな感じですか？』

・自分から人手が必要なお部屋をみつけ、「手伝ってくる」と言ってくれ、助かっている。

・危険の予測も出来て、声掛けしてくれる。

・自分の許容範囲もわかり、できないこと（みれることみれないこと）もきちんと伝えてくれる。「これは、私はできない」等

・采奈ちゃんが「帰るね。」と言うと、後追いする子どももおり、子どもにも好かれている。

☆乳児院の子ども達に聞きました。

「采奈ちゃんは、好きですか？」

「うん！好き！」

と笑顔で言ってくれました。

采奈ちゃんは、中学では、三年間もしっかりと吹奏楽部を続けることができました。乳児院のボランティアも、忘れることなく、毎週通い、乳児院のお姉さん方に褒められています。この経験から、達成感や自信が育っていると、私たち担当も感じています。心根の優しい采奈さん、このまま優しい心をもち育っていって欲しいです。

神戸真生塾は、乳児院と養護施設が、いろいろな場面で連携し、子ども達を共に育て、見守っていると、采奈さんのボランティアを通して、采奈さんを褒めて下さる乳児院のお姉さん方と話す中で、改めて思いました。今後も、子ども達のよりよい成長を願い、連携していきたいと思います。

（沖野）

こどものつぶやき

☆電気の点検の人が来ることを伝えると「えっ、探検の人が来るん？」部屋で探検はできませんよ。

（9才　Mちゃん）

☆病院から帰ってきた子どもに「何者さん行ってきたん？」

（9才　Yちゃん）

☆鼻水がつまって鼻から音がするAちゃん。職員が呼びかけると「ピーピー（なーにー？）」お鼻でお返事上手に出来ていました。

（9才　Aちゃん）

☆引き続きAちゃん。鼻づまりで苦しそうにしていたので「こよりをして鼻をこしょばす　とくしゃみが出てすっきりするんだよ」と話すと「小指？」と。さすがに小指で鼻をこしょばすのは職員だって出来ません。

（9才　Aちゃん）

☆ほにゅうびんの発音は幼児の子どもたちには難しかったようで「こにゅうびん？」「およーびん？」と何度も言い直していたので職員がゆっくり話すと「なんでそんなゆっくり話すの？」と聞かれました。驚きすぎて何もいえませんでした。

（6才　Kちゃん）

☆ご飯を全部食べた後「お口とおてていっぱい頑張ったな！お口はもぐもぐして、おてははお皿もったもんな！」

（4才　Yくん）

☆小2男児と小3男児の会話「おすもうの人って、なんで砂糖まくん？」「ちがうで、塩やで」「そうなんやー」と考え込む。

（小2・小3男児）

☆外に遊びに行きたいと言ったKちゃんにどうして外で遊びたいのか聞くと「だってどんぐりさんと遊ぶ約束してるから」

（5才　Kちゃん）

《児童養護　神戸真生塾》

マリンピア HIP HOP イベント

八月十八日にマリンピア神戸にてCHIRDREN STORY（チルドレンストーリー）が主催するヒップホップイベントに参加させて頂きました。

CHIRDREN STORYは複雑な背景を持つ子どもたちとの交流をヒップホップを通じて行っているグループであり、以前に神戸真生塾に来られ子どもたちと交流して下さった関係で今回ご招待下さいました。招待して下さっただけではなく、イベント出場に向けて一ヶ月間子どもたちにダンスを教えにも来て下さりました。子どもたちは今まで本格的なダンスをやったことがなく、どこまで出来るだろうと思っていました。しかし、教えに来てくださったおかげで、子どもたちはみんなダンスに興味津々で、一ヶ月もの間一生懸命練習を行うことができました。

振り付けが難しい時には個別で練習をして下さることもありました。子どもたちはそんなお兄さん達のことが大好きになりました。職員から見ても難しい振り付けを何度も練習することで、習得していく姿には感激する程でした。

本番では、幼児の子どもたちは、きゃりーぱみゅぱみゅの「にんじゃりばんばん」のダンスをかわいく元気に披露しました。学童の子どもたちは洋楽であるYolanda Adamsの「I believe」という曲をかっこよくダンスしました。

夏の暑い日に野外のステージであったにも関わらず、子どもたちが物怖じすることなく最高の笑顔で目をキラキラさせて踊っている姿は本当に印象深く、好きなこと、楽しいことであれば頑張れるということを教えてもらったイベントになりました。

また神戸真生塾内で開かれている歌の教室である「うたっこ」もステージに参加させていただき、歌を披露しました。このHのために練習をして少しでも良い歌を届けようと頑張っていました。うたっこのメンバーにとっても野外のステージは良い経験となったことと思います。

歌や音楽の素晴らしさを改めて感じました。また、体を共に動かし頑張ることで子どもたちとの素晴らしい絆が出来ていくような気がしました。

招待して下さったCHIRDREN STORYの皆さんに心から感謝を申し上げます。今後も、共同して活動を行っていければと思っていますのでご期待下さい。

（正木）

インタビュー

（ENDY）施設職員、生徒の信頼関係こそが子ども達の未来に繋がると思います。HIPHOPという音楽がその力添えになれればと思って僕らも楽しくやらせてもらっています！

（K3&MIRA-E）誰にでも苦労や難関、いつかぶつかる高い壁があります。そこに付きまとう恐怖心、羞恥心、周囲からの蔑み、僕も毎日感じていますが、それを乗り越えたとき、その先に笑顔、尊敬、感謝が必ずあります。飛び込んでくれる勇気ある子どもたちと一歩ずつ進んでいくそのためのCHILDREN STORY。

（ANNY）私がこのイベントを通して伝えたいことというような大それたことはありません。ただ、このイベントに触れてくれた人たちが何か感じて心に思うものが出来てくれたらそれだけで私は満足です。

（WORLD BEATER）僕には親があり、家があります。貧乏でもご飯に困ったことはありません。そんな自分に何が出来るのか、HIDEの背中を押すことです。

（TERU）心から楽しんで踊ることで諦めず希望を持ち努力し続ければ夢は叶う！と子どもたちから学びました。

（KAZ）私は子ども達の溢れんばかりのパワーと笑顔を見て頂いた全ての人に感じてほしいです。そして何より、子どもたち自身に自分の中の無限の可能性を知ってほしいです。

（HIDEa.k.a.CX）立ち上げ人のHIDEです。私は幼少期より虐待に近いことを受けて育ちました。痛みを知っているから出来ることも多々あります。施設や野外等、様々な場所で3年以上続けていますが、このイベントは毎回体感しないと伝えたいこと、想い、意味は分かりません。なので是非イベントを行う際は観に来てください。お待ちしております。

《乳児院 真生乳児院》

なつの思い出

シーパル須磨お泊り保育

7月31日から8月1日にかけて、大人2人・子ども2人で、シーパル須磨へお泊り保育に行きました。行きの車内から大はしゃぎのS君とAちゃん。夕食の後、近くの須磨水族園へイルカのトワイライトショーを観に行きました。イルカがジャンプする度、S君、Aちゃんの身体も“ギュッ”と力が入り、まるでイルカと一緒にジャンプしているようでした。

暗くなるころ、ホテルに戻り花火をしました。とても喜んでいる子どもたち。素敵な夏の思い出がたくさん出来ました。

（山本）

淡路島お泊り保育

8月7日～8日にかけて、一泊二日で淡路島へ行きました。大人3人・子ども4人で元気よく出発進行。広々とした公園で伸び伸びと遊んだ後、海へ行くと、子ども達は大胆に頭から水をかぶり大はしゃぎ。翌日は、動物たちと触れ合って遊びました。

子ども達から「みんなで行ったね！」という言葉をよく聞きます。みんなで過ごす喜びを改めて感じていることが伺えます。夏らしい遊びを体験し、大きく成長できた2日間でした。

（照喜名）

梨狩り

「車乗っていこうね！」

子ども3人・大人2人で、8月20日に梨狩りへ行きました。前々から楽しみにしていた子ども達。フルーツフラワーパークに着くと大喜び。抱っこしてもらい好きな梨を選んで、喜んで収穫しました。

アスレチックで体を動かした後は温泉へ。「次はこっち！」と色々なお風呂入ったり、水風呂に足をつけてみたりして大喜び。

梨狩りに行ってからは、梨を見る度「梨狩り行ったね！おいしかったね！」と会話が弾んでいます。

（中山）

デイキャンプ

8月26日に、大人4人・子ども6人で、丹波「森のひととき」へデイキャンプに行きました。キャンプ場では、川で「顔つけれるねん！」と潜ったり、カニやカエルを見つけて触ったりして、多くの自然に触れることが出来ました。

バーベキューでは、昼食の準備のお手伝い。目の前で焼いたお肉を食べるなど普段出来ないことが楽しめました。今回のデイキャンプで、友達や保育士、みんなで外出し、楽しさを共有する良い経験がたくさん出来ました。

（黒佐）

バーベキュー

9月5日に、3～4歳の子どもたち5人と大人4人で、和歌山マリーナシティーへ行きました。遠出するのは初めての4歳児K君。「まだ着かへんの？」と、車の中では言っていましたが、黒潮市場の中にあるバーベキューのお店へ行くと、食材を選び、焼いて、食べて大喜び。たくさん遊び、温泉にも入ってお腹がペコペコになった子ども達。初体験の回転寿司へ行きました。目を丸くして回っている寿司を見ていたAちゃんは「ピンク（中トロ）がいい！」と、三皿ペロリと食べ大満足。日頃の表情とは違う子ども達の姿を見る事が出来て、私達も嬉しく思いました。

（本谷）

《保育所 真生きらきら保育園》

ぶどう狩りに行ってきました

”「ぶどうさんのぶどうや」「ぶどうぐみのぶどうもうない」などぶどうの話しの度にどこからともなく聞こえてきた園外保育のぶどうがり。ぶどうぐみにとって初めての園外保育で、「今度ぶどうがりに行くよ～」と伝えた日から、「ぶどうがり行く？」「今日、ぶどうがり？」と質問がよく聞かれました。

当日は見事に晴天。バスの中では嬉しさが止まらずおしゃべりが止まらない、いつもと違う様子と、どこに行くのかわからない期待と不安で無言の子、ただただ嬉しくてごそごそと動きがとまらない子などいろんな姿がみられました。ぶどう園ではたくさんのぶどうを見て、あの「ぶどうさんのぶどう」の声が！！　実際にぶどうをたべる時は、「皮むいて」や食べ方がわからないと実を目の前に困っている子もいましたが、食べていくうちに、自分で食べられるようになり、食べるペースも中盤はパワーアップしていました。そして口まわりがだんだんと紫色になっていて、子どもたちが食べている姿が本当にかわいかったです。そして自分たちのはるか上にあるぶどうを保育士が抱っこし、はさみを持って切ることにも挑戦しました。はさみで切ることにまだ慣れてない子どもたちですが、ぶどう園のおじさんにおいしそうなぶどうを一緒に選でもらい頑張ってとりました。自分たちの手からあふれ出る大きなぶどうの房、私が落とさないかとひやひやしている横で、子どもたちは嬉しそうにそして大胆に運んでいました（ハラハラ・ドキドキ）。帰りのバスの中でも楽しさはつづき、ほとんどの子が寝ることなく、にぎやかな声を聞かせてくれてました。

（廣瀬）

みんなが幸せに、気持ち良く過ごすために！

最近の4・5歳児クラスは、以前以上に「みんな」を意識しはじめています。そして、益々「みんな」が大好きになり、心地良いと感じてくれているように思います。それぞれが、それぞれの「個性」を、『在りのままに』受け入れようとする姿が、あちらこちらでみられます。受け入れるにあたり、紆余曲折・試行錯誤する姿もみられます。「考えて↓受け入れる」のです。素晴らしいことだと思います。そんな子どもたちの姿をみて、私も彼らがより「みんな」で過ごすことを「嬉しい」と感じられるように、何かお手伝いできないかと考えました。そして、取り入れたのが『みんなのルール』です。

これは、私独自の提案ではなく、今まで保育者として学んできた際に出逢った様々な支援プログラムや学術的な要素をもとに、「“２０１３年度の”りんご・めろんぐみ」にふさわしい内容になるよう、私が選別し、アレンジしました。

例えば、「声のものさし」という概念を使ったルール。

これは、場面や状況にあった声量調節をするためのルール（目安）です。目で見て確認しやすいよう、そらの保育室の入口にものさしの絵を掲示しています。また、「人と話をするときは、目を見よう」「誰かが素晴らしいことをしたら、拍手をしよう」などのルールを、提案する形で子どもたちに提示しました。提案する際に、子どもたちに出来るだけわかりやすい例えをするように心掛けました。すると、子どもたちから、意見や質問がでるようになりました。

やはり、ここでも「考えるです。今では、随分と生活の中に「みんなのルール」が活用されるようになってきています。それは、「考え、納得し、理解し、安心した」からではないかと思います。子どもたちは「みんなのルールはみんなが幸せに・気持ちよく一緒に過ごすうえで、便利なもの」と理解してくれています。子どもたちが、私が思っていた以上に、しっかりと、正しく認識してくれたことに、本当に喜びを感じるとともに、心からの拍手をおくっています。

（森本）

皆様のご意見、ご要望をお聴きしています。

神戸真生塾苦情処理委員会

苦情受付担当者　久山　啓　（子ども家庭支援センター ロータリー子どもの家 センター長）
森本　みずき　（真生きらきら保育園 主任保育士）

苦情解決責任者　富川　和彦　（児童養護施設 神戸真生塾 施設長）
數田　紀久子（乳児院 真生乳児院 施設長）
上杉　徹　（保育所 真生きらきら保育園 園長）

第三者委員　森光　規之（当法人 監事 ）
中村　悦子（主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員）

苦情受付件数　平成25年 3月より6月末まで　２件

子育てに困った時は先ず電話！

毎日、午前9時～午後6時、緊急のご相談は夜間もOKです。

ロータリー子どもの家は、児童福祉法に基づく児童家庭支援センターとして、神戸市から認可を受けています。

二〇〇五年度の四月より、従来の活動とともに、子どもと家庭についての専門相談機関として、働いています。

子育てホッとライン（相談専用）

TEL.078-341-6493

神戸真生塾子ども家庭支援センター
（ロータリー子どもの家）

Homepage　http://www.rotary-kodomonoie.org/

《編集後記》

暑かった夏も終わり、落ち葉が風に舞うころとなりました。

皆様の温かなご支援を頂き、夏の大きな行事となっている琵琶湖キャンプや納涼大会も無事に終えることが出来ました。皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。こんな形ではありますが皆様へのお返しとして、日々の生活や行事の様子をお伝えできることを嬉しく思っております。

『愛』第二六号はいかがでしたか。手にとって頂き、職員一同嬉しく思います。今号も子どもたちの様子を写真と共にお伝えしましたが少しでも楽しさや努力している子どもの姿が伝わりますよう記事をたくさん掲載させて頂きました。子どもの成長は早いもので写真のときよりもお兄さん・お姉さんになったなと編集していて感じさせられます。

今号では紹介が出来ていませんが毎年恒例の神戸市養護施設連盟主催のバレーボール大会にも参加させて頂きました。惜しくも賞をとることは出来なかったのですが子どもたちと一生懸命練習出来たことを幸せに思います。

次号もまた沢山の話題と写真と共に皆様にお届けしたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。　（中道）